

第7回のテーマ

がん性疼痛のアセスメントに必要な基礎知識

# がん性疼痛

がん患者さんの多くは痛みを経験すると言われています。患者さんの痛みを緩和するために一緒に考えてみましょう。Aさんは70歳代男性、肺がんです。右前胸部の痛みに対してロキソプロフェン®とオキシコンチン®TR錠<sup>1</sup>が内服開始となっています。

●がん性疼痛とは

がん疼痛（がん性疼痛）とは、がん患者に生じる痛みのすべてを含み、がんによる痛み、がんの治療による痛み、がんやがん治療と無関係の痛み、が混在するとされています。

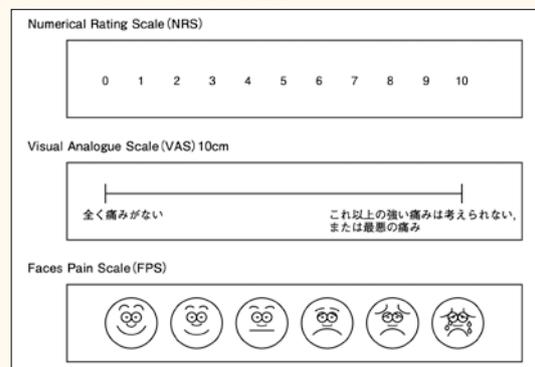
●痛みのアセスメントのためには問診が重要です

項目	具体的内容	質問の仕方（例）
痛みの部位と程度	限局的・全体的か、スケール(図1)の活用	痛みはどこが痛みますか？痛みはどのくらいですか？
痛みの性質	ズキズキ、びりびりなど	どのような痛みですか？
痛みのパターンや持続時間	突出痛、持続痛の有無	ずっと痛みますか？急に痛みが強くなりますか？
痛みの増悪因子・緩和因子	悪化（緩和）する要因は何か	どのような時に痛みが強くなる（楽に）なりますか？
鎮痛薬の使用状況と効果、副作用	内服状況確認、効果の有無、特に眠気・悪心・便秘などの有無	痛み止めはどんな時に使用していますか？ 痛み止めを使うと楽になりますか？ 眠気、便秘や吐き気はありますか？
痛みによる日常生活への影響	活動、排泄、睡眠、食事など	痛みによってできないことはありますか？
他の症状による苦痛	呼吸困難など	他にづらい症状はありますか？

●Aさんの痛みをアセスメントしていきましょう

- ・痛みは右前胸部に局限しており、痛みの程度はNRSで5程度。ズキズキする痛みで、持続痛で体動にて悪化しています(NRS7)。画像上がんが胸膜に浸潤しています。また、硬便で排便困難感の自覚があります。
- ・痛みの状況から侵害受容性疼痛体性痛<sup>2</sup>と考えられます。体動時に痛みが増悪していますので、レスキュードーズ<sup>3</sup>（オキノーム®散<sup>4</sup>）の予防的な使用を促していきます。
- ・便秘傾向となっており、オピオイド鎮痛薬の副作用と考えられます。腹部のフィジカルアセスメントも併せて実施していき、便秘に対して下剤の使用などを検討します。

図1 痛みの評価に用いる主なスケール



NRSは0～10ポイントのなかで痛みの点数を問う。  
VASは100mmの直線上に、痛みの強さのところに印をしてもらい、0mmからの長さを測定する。  
Faces Pain Scaleは痛みが一番合う顔を選んでもらう。

日本緩和医療学会 がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン2020年版より一部改変

\*注1：オキシコンチン®TR錠：オキシコドン塩酸塩水和物、徐放性製剤（じっくり効くタイプ）。強オピオイド鎮痛薬の1つ。基本的には12時間ごとに投与される。  
\*注2：侵害受容性疼痛体性痛：皮膚や骨、筋肉、などの体性組織がダメージを受けた結果起こる痛みが体性痛。オピオイド鎮痛剤が効きやすい。  
\*注3：レスキュードーズ：基本となるモルヒネが投与されている状態で、痛みが残存または増強した場合に追加される臨時的モルヒネ投与のこと。  
\*注4：オキノーム®散：オキシコドン塩酸塩水和物、速放性製剤（早く効くタイプ）。レスキュードーズとして使用される。

Point

- ①痛みを訴えている場合、緊急性が高い疾患の可能性を念頭においてフィジカルアセスメント行っていきます。
- ②継続的に痛みのアセスメントを実施していくことが必要です。

文献

- 1) 山内豊明、フィジカルアセスメントガイドブック—目と手と耳でここまでわかる第2版 医学書院 2012
- 2) 日本緩和医療学会 がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2020年版 金原出版
- 3) 編集：藤崎郁 フィジカルアセスメントをケアにつなげる 12事例で学ぶ看護の要点 医学書院 2012
- 4) 余宮さのみ がん性疼痛緩和の薬がわかる本 医学書院 2013

次回、第8回のテーマは『胸痛のアセスメントに必要な基礎知識』を予定しています。